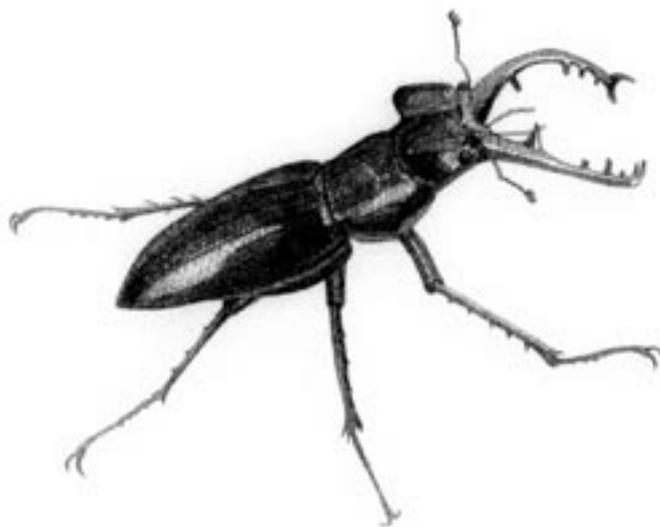


兵庫県のカブトムシ・クワガタムシ

神戸元町・夏の昆虫館 2010 参考資料



兵庫県は北部を日本海、南東・南西部を瀬戸内海、淡路南岸を太平洋に接し、但馬の豪雪地帯から淡路の温暖な地域までを含みます。また、中国山地東端、県最高峰 1,510m の氷ノ山を有し、海岸線の海浜植物群落から高山のブナ帯までの植生があり、それに伴い多くの生物が見られます。

今回ご紹介する兵庫県内で記録のあるカブトムシ 2 種、クワガタムシ 17 種、参考種 2 種ですが、わたくしたちの身近な里山に棲み、夏の風物詩となっているもの、また氷ノ山や扇ノ山などのブナ帯でないと見られないもの、おそらく海流に乗って来たと思われる、島嶼でしか見られないものなどがいます。

体の大きさやデザイン、色など、今回の展示をご覧いただくことで、カブトムシやクワガタムシに対して、また違ったイメージをお持ちいただけるようになるかもしれません。

このように、いろいろなカブトムシやクワガタムシが見られるということで、兵庫県の自然の多様性を感じいただき、ご興味をお持ちいただければ幸いです。



カブトムシ類

1. カブトムシ

学名 : *Trypoxylus dichotoma septentrionalis* Kono

国内分布 : 北海道・本州・四国・九州・各周辺の諸島

県下記録地 : 神戸阪神・播磨東部・播磨西部・但馬・丹波・淡路

里山の代表的な昆虫。幼虫期に腐植物質を大量に摂取するため、有機肥料の置き場や有機ゴミの捨て場など、人々の生活の傍で発生したものなどが目に付きやすく、ポピュラーな昆虫になったのではないと思われる。成虫はクヌギやアベマキなどの樹液に集まり、果実なども摂食する。県下には広く分布する。



2. コカブトムシ

学名 : *Eophileurus chinensis chinensis* (Faldermann)

国内分布 : 北海道・本州・四国・九州・各周辺の諸島

県下記録地 : 神戸阪神・播磨東部・播磨西部・但馬・丹波・淡路

雑木林などの朽木の中や樹洞などで見られる。成虫は樹液にも来るが肉食性も強く、他の昆虫の死骸なども食している。県下には広く分布するが、意外に目にする機会は少ない。



クワガタムシ類

1. マダラクワガタ

学名 : *Aesalus asiaticus asiaticus* Lewis

国内分布 : 北海道・本州・四国・九州・対馬・伊豆諸島

県下記録地 : 播磨西部・但馬

日本で最小のクワガタムシ。クワガタムシ科の特徴である「触角第 1 節が長く、触角が "く" の字に折れ曲がる」という特徴を持っているのでクワガタムシ科であることがわかる。アセビやカツラなどの朽木で見つかることが多い。兵庫県版レッドデータブック Cランク





2. マグソクワガタ

学名 :*Nicagus japonicus* Nagel

国内分布 : 北海道・本州

県下記録地 : 但馬 (1991 年、美方郡小代溪谷で足立義弘氏によって採集された一頭ほか)

小さなコガネムシのような変わったクワガタムシ。最初はクワガタムシ科として記載されたものの、一時期コブスジコガネ科に分類されたりマグソクワガタ科が創設されたりと混乱していたが、1992 年、幼虫の形態から研究分類されクワガタムシ科の昆虫となった。兵庫県版レッドデータブック要調査種



3. チビクワガタ

学名 :*Figulus binodulus* Waterhouse

国内分布 : 本州 (関東以西)・四国・九州・伊豆諸島

県下記録地 : 神戸阪神・播磨東部・播磨西部 (佐用郡東徳久・清水, 2008 他)・但馬・丹波 (柏原町田路・佐藤, 1991)・淡路

低地～低山地の雑木林に棲み、広葉樹の朽木の中より見つかる。集団で居ることが多い。屋外にてハナムグリ類の死骸を食べる成虫を観察したことから成虫には肉食性があることがうかがえる。兵庫県版レッドデータブック地域限定種・淡路 C ランク



4. マメクワガタ

学名 :*Figulus punctatus* Waterhouse

国内分布 : 本州 (山口県・兵庫県・紀伊半島沿岸部)・四国 (南部沿岸部)・九州 (南部・西部沿岸部)・伊豆諸島・対馬・男女群島・天草諸島・屋久島・トカラ列島・奄美大島・徳之島・沖縄本島・石垣島

県下記録地 : 播磨西部 (家島)・淡路 (沼島)

黒潮に沿った島や沿岸部など海岸沿いに分布し、シイ、カシなどの広葉樹の朽木から採集される。兵庫県版レッドデータブック C ランク



5. トウカイコルリクワガタ

学名 :*Platycerus takakuwai akitai* Fujita

国内分布 : 本州 (富山・岐阜・石川・福井・三重・滋賀・奈良・和歌山・大阪・京都・兵庫)・四国 (香川・徳島・愛媛)

県下記録地 : 播磨東部?・播磨西部 (神崎郡笠形山)

広くコルリクワガタと呼ばれていたものの中に地理的な変異が見出され、この種は 4 亜種に区分され (藤田, 1987)、県下に生息するものは“キンキコルリクワガタ”と呼ばれるようになった。その後、研究が進み、♂交尾器内袋の比較で、本種はトウカイコルリクワガタの近畿亜種として分類されることになった (久保田・久保田・乙部, 2009) 兵庫県版レッドデータブック要注目種

6. ニシコルリクワガタ

学名 : *Platycerus viridicuprus viridicuprus* Kubota

国内分布 : 本州 (京都・兵庫・岡山・鳥取・広島・島根・山口)

県下記録地 : 播磨西部・但馬 (京都府大江山と兵庫県赤西渓谷を結ぶラインの北西部)

以前は“キンキコルリクワガタ”と呼ばれていた本種も精査され、独立種として新しい名前が付けられた。(久保田・久保田・乙部,2009) 本県を含む地域のものは、やや青緑色を帯びる♂の個体が多いといわれるが、他亜種との外見での比較は難しい。トウカイコルリクワガタと同じく春先、ブナ、トネリコ、ミズナラなどの新芽に集まる。



7. ルリクワガタ

学名 : *Platycerus delicatulus delicatulus* Lewis

国内分布 : 本州・四国・九州

県下記録地 : 播磨西部・但馬

緑色～青藍色の美しいクワガタムシ。♀の体下面は黒色。ブナ帯に棲む。県下ではブナの残る氷ノ山、扇ノ山、蘇武岳、音水渓谷で記録がある。兵庫県版レッドデータブック要注目種



8. ミヤマクワガタ

学名 : *Lucanus maculifemoratus maculifemoratus* Motschulsky

国内生息地 : 北海道・本州・四国・九州・佐渡・隠岐・五島列島・甌島列島・熊毛諸島

県下記録地 : 神戸阪神・播磨東部・播磨西部・但馬・丹波・淡路

♂の歯型に変異があり、3つの型、基本型(ヤマ型)・エゾ型・フジ型(サト型)として整理されている。やや山地性が強いとされるが、兵庫県を含む関西では平地にも多い。



9. オニクワガタ

学名 : *Prismognathus angularis angularis* Waterhouse

国内分布 : 北海道・本州・四国・九州北部・佐渡

県下記録地 : 神戸阪神 (川西市妙見山)・播磨西部 (赤西渓谷・山本,2002)・但馬

主にブナ帯に棲息するため県下では氷ノ山、扇ノ山に多い。六甲山での生息の可能性も示されている。成虫は8月以降に多くなり、樹液には集まらず、朽木や倒木に付いているものが見られる。灯火に飛来する。兵庫県版レッドデータブック要注目種





10. ノコギリクワガタ

学名 : *Prosopocoilus inclinatus inclinatus* (Motschulsky)

国内分布 : 北海道・本州・四国・九州・佐渡・隠岐・対馬・壱岐・五島列島・伊豆諸島・甌島列島・大隅諸島

県下記録地 : 神戸阪神・播磨東部・播磨西部・但馬・丹波・淡路

♂の大あごはサイズによる変異が大きく、長歯型・両歯型・原歯型に分けられる。低地から低山地の広葉樹を中心とした雑木林で7月に多く見られる。



11. ネブトクワガタ

学名 : *Aegus laevicollis subnitidus* E.Saunders

国内分布 : 本州(山形県以南)・四国・九州・佐渡・伊豆諸島・対馬・五島列島・甌島列島・大隅諸島・トカラ中之島

県下記録地 : 神戸阪神・播磨東部・播磨西部・但馬・丹波・淡路

南方系の種であるとされているが、県下では県中部や但馬からも記録されている。マツなどの針葉樹の腐朽土化した部分に幼虫が見られ、成虫はモミなどの樹液に来ることが知られている。兵庫県版レッドデータブック地域限定種・淡路Cランク



12. オオクワガタ

学名 : *Dorcus hopei binodulosus* Waterhouse

国内分布 : 北海道南部・本州・四国・九州・対馬

県下記録地 : 神戸阪神・但馬・丹波

薪炭を得るために人為的に剪定された“台場クヌギ”の樹洞を隠れ処として好む。日本一と言われる菊炭の産地である川西市、猪名川町などは全国的にも有名な多産地であった。飼育法が確立され多くの本種がペットとして得られるようになったが、飼っていたものを他地域の雑木林に放したり、逃げられたりする事例が増え、野外採集しても自然分布の個体なのかどうか判断ができなくなりつつある。兵庫県版レッドデータブックBランク



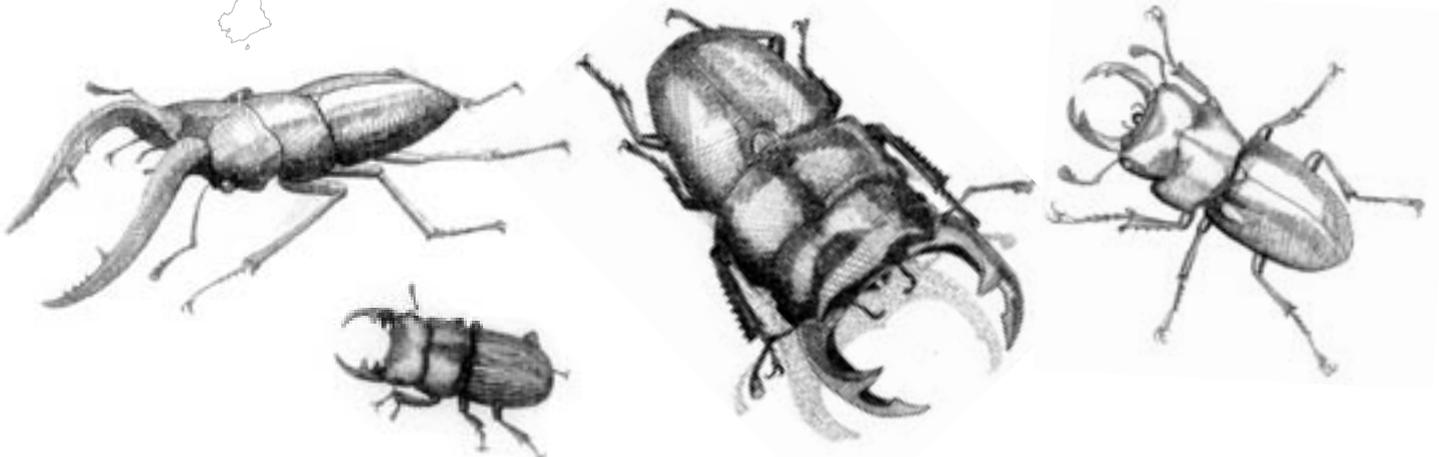
13. ヒメオオクワガタ

学名 : *Dorcus montivagus montivagus* (Lewis)

国内分布 : 北海道・本州・四国

県下記録地 : 但馬

主にブナ帯に棲息するため、県下では標高1,000m以上の氷ノ山、扇ノ山で見られる。朝来市和田山町の記録も1例ある。成虫は8月~9月頃が最も多い。沢沿いのヤナギ類の細い枝に集まる。兵庫県版レッドデータブックCランク



14. ヒラタクワガタ

学名 :*Dorcus titanus pilifer* (Vollenhoven)

国内分布 : 本州 (北限は山形県)・四国・九州・隠岐・伊豆諸島・甌島列島・大隅諸島

県下記録地 : 神戸阪神・播磨東部・播磨西部・但馬・丹波 (氷上郡・田中, 1987)・淡路

南方系の種で、暖かい地方の低地～低山地の広葉樹を中心とした雑木林に棲息する。日中は樹皮裏や樹洞、木の根元等で休むことが多い。



15. コクワガタ

学名 :*Dorcus rectus rectus* (Motschulsky)

国内分布 : 北海道・本州・四国・九州・佐渡・伊豆諸島・隠岐・対馬・壱岐・五島列島

県下記録地 : 神戸阪神・播磨東部・播磨西部・但馬・丹波・淡路

雑木林に棲息し、日本国内で最も普通に見られるクワガタムシ。県下でも最も目に付きやすいクワガタムシである。



16. アカアシクワガタ

学名 :*Dorcus rubrofemoratus rubrofemoratus* (Vollenhoven)

国内分布 : 北海道・本州・四国・九州・佐渡・対馬

県下記録地 : 神戸阪神 (川西市笹部)・播磨東部 (多可郡寺山)・播磨西部・但馬
腿節と後胸腹板が鮮やかな赤褐色である。ブナ帯など標高の高い山地に多いが、標高 300m 程度の低地にも棲息している。成虫はヤナギ類の細い枝先にいることが多い。



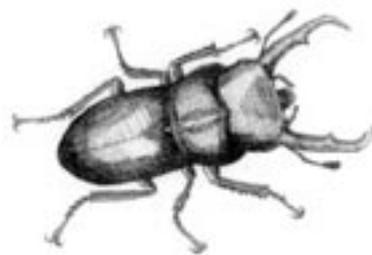
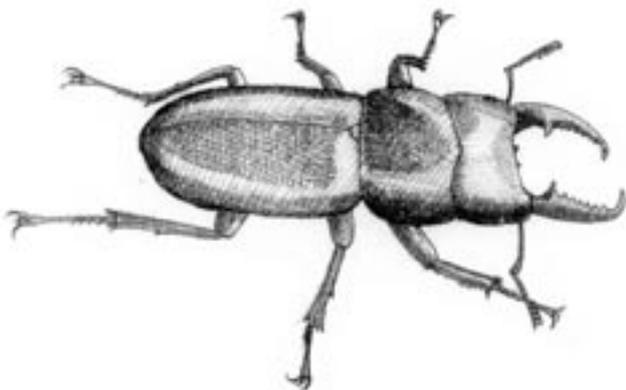
17. スジクワガタ

学名 :*Dorcus striatipennis striatipennis* (Motschulsky)

国内分布 : 北海道・本州・四国・九州・佐渡・対馬・伊豆諸島・甌島列島・大隅諸島

県下記録地 : 神戸阪神・播磨東部・播磨西部・但馬・丹波・淡路

低地から高標高の山地まで広く棲息している。標高の高い山地より神戸市など低地では大型の個体が多いようである。



県内、幻のツヤハダクワガタ

ツヤハダクワガタ

学名 : *Ceruchus lignarius monticola* Nakane

ツヤハダクワガタは北海道・本州・四国・九州に分布し、中部・近畿亜種は本州中部～紀伊半島の山地のブナ帯に生息している。

県下では田中正浩氏が氷ノ山で幼虫を採集し、飼育されたが、残念ながら成虫までにはならず、成虫での確認は報告されていない(田中,1987)。また、箕面昆虫館に氷ノ山産のオスの標本が展示されていたという記述もある。その後、谷角素彦氏が兵庫県立豊岡高校にラベルの無いツヤハダクワガタの標本があることを報告しておられ、それが、兵庫県産のものである可能性を示されている(谷角,1990)。

まだ兵庫県内では確実な記録のない、幻のクワガタムシである。県内で生息する可能性のある地域は中国山地の東端、氷ノ山、扇ノ山あたりと思われる。

対馬から海流に乗って兵庫県に来た？

ツシマヒラタクワガタの死骸

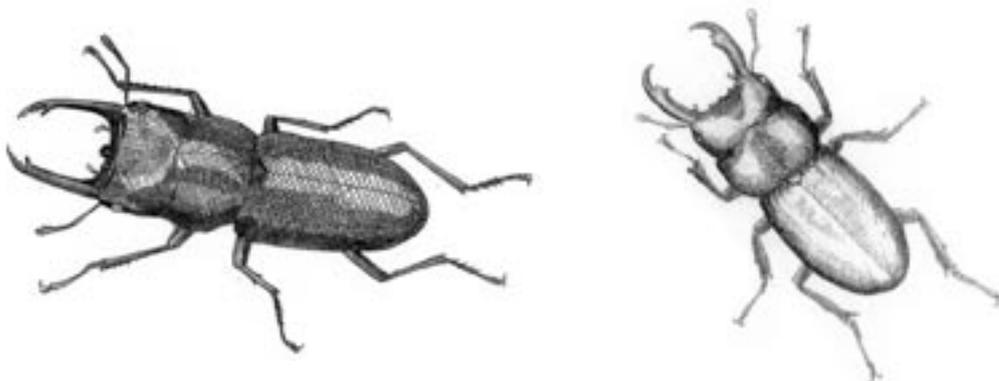
ツシマヒラタクワガタ(ヒラタクワガタ対馬亜種)

学名 : *Dorcus titanus castanicolor* (Motschulsky)

ヒラタクワガタの一亜種で長崎県対馬に生息する。他の亜種に比べると体型がやや細長く、特に♂のあごは長くなり、第一内歯が基部に近づく。わかりやすい特徴のある亜種である。

1994年8月12日、対馬から遠く離れた兵庫県美方郡浜坂町の海岸において、ツシマヒラタクワガタ♂の頭部が、岩礁に打ち上げられた漂流物として採集された(谷角・岩見,1994)。

この報告は、昆虫の分布拡散と海流の関係を考えるうえで一つの貴重な資料になると思われる。他のクワガタムシ類や昆虫においても、流木などにせん入したものが海流に乗り、分布を広げるものがある可能性が示されたユニークな報告である。



参考文献：

カブトムシ類

日本産コガネムシ上科図説 第2巻 食葉群I 酒井・藤岡,2007

クワガタムシ類

原色日本甲虫図鑑 (II) 上野・黒澤・佐藤,1985

検索入門 クワガタムシ 黒澤・岡島・山口,1988

改訂・兵庫の貴重な自然 - 兵庫県版レッドデータブック 2003-
兵庫県県民生活部環境局自然環境保全課,2003

きべりはむし 28(1):3-11. 兵庫県のクワガタムシ (1). 高橋寿郎,2000

きべりはむし 28(2):42-52. 兵庫県のクワガタムシ (2). 高橋寿郎,2000

月刊むし 250号:4. 兵庫県でマグソクワガタを採集. 足立義弘,1991

月刊むし 285号:34. 対馬海流によって本州に流れ着いたツシマヒラタクワガタの死骸.

谷角素彦・岩見裕介,1994

月刊むし 462号:6-21. 日本産ルリクワガタ属の系統と進化 (1).

久保田耕平・久保田典子・乙部 宏,2009

IRATSUME 13・14:78. 但馬で採れていたツヤハダクワガタ. 谷角素彦,1990

昆虫と自然 22(7):9-14. 兵庫県のクワガタムシ. 田中正浩,1987

兵庫県のカブトムシ・クワガタムシ

監修：谷角 素彦*

編集・執筆：山本 勝也*

協力：相坂 耕作*・足立 義弘・伊藤 主計・佐藤 邦夫・清水 哲哉*・田中 正浩・三木 進*・八木 剛*（アイウエオ順）

イラスト：近藤 伸一*

* NPO 法人こどもとむしの会正会員

発行：NPO 法人こどもとむしの会 2010年8月12日

<http://www.konchukan.net>